

※この資料は、県ホームページでも公開しています。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36250a/inasakugijyutujyouhou.html>

## 令和8年 稲作情報 vol.2



[問い合わせ先] 南会津農林事務所農業振興普及部 Tel 0241-62-5262  
南郷普及所 Tel 0241-72-2243  
J A 会津よつば田島営農経済センター Tel 0241-63-1172  
南郷営農経済センター Tel 0241-72-2554

### 1 気象情報（気象庁、1か月予報 4/11～5/10）

仙台管区気象台1ヶ月予報によると、4月の気温は平年より高いと予想されています。育苗中に苗が高温・強日射にさらされることで、葉や生長点が障害を受けることがあるのでハウスの高温や低温に注意しましょう。

### 2 出芽(出芽の温度管理に注意しましょう)

表：育苗時の温度管理について

育苗器	温度 28℃設定 2～3昼夜を目安とする。
ハウス内 無加温	ハウス内温度は 28℃ 苗ヤケ防止のため、28℃以下になるよう適宜換気 を行い、被覆日数は5～7日間を目安とする。

### 3 緑化

- ・ **出芽率 80～90%、芽の長さ 5～10mm を目安**に緑化に移ります。
- ・ 緑化の際は**日中 20～25℃、夜間 12～15℃**で管理し、**ハウス内の温度が 28℃を超えないよう**管理しましょう。
- ・ 育苗用被覆資材を平張りし、苗が緑化して、草丈が 1.5～2.0cm になったらはずしましょう。

### 4 硬化

- ・ 硬化期は換気をこまめに行い、**日中 20℃、夜間 10～15℃**で管理しましょう。
- ・ かん水は原則、1日1回、朝方に十分行いましょう。
- ・ 高温により育苗箱が白く乾いたら、昼頃に追加で行いましょう。

### 5 水稻苗の生育不良

水稻苗の萎れ（しおれ）、葉の褐変や白化、生育停止（出芽不良）が見られたら、問い合わせ先へ御相談ください。（上記電話番号）

## 6 育苗期間中の病害対策

### (1) カビによる苗立枯病

原因菌	病徴	発生要因
トリコデルマ菌	床土の表面や、種もみの周辺に白いカビが生え、その後青緑色になる。激しく発病すると出芽しても先端がよじれ、褐変枯死する。	・床土の低 pH ・床土の乾燥 ・育苗時の高温
ピシウム菌	幼苗期の腐敗枯死症状、育苗後期の萎凋枯死症状（ムレ苗）がある。	・緑化期以降の低温
フザリウム菌	地際部や根の褐変腐敗、苗の基部やもみの周辺に白やピンクのカビが発生する。	・硬化期初期までの 10℃以下の低温 ・床土の乾燥と過湿の繰り返し
リゾープス菌	出芽時に糲の周囲や床土表面に白い綿毛状のカビが生じる。苗の生育が劣り、黄緑色に退色する。	・出芽期間中の 30℃以上の高温 ・緑化期から硬化期にかけての 10℃以下の低温

#### ・ 有効な農薬

下表は苗立枯病に有効な農薬の例です。最寄りの JA や各販売店の情報を参考に、使用薬剤を選択してください。

農薬名	適用病害虫	希釈倍数・ 使用量	使用方法	使用時期	本剤の 使用回数	散布液量
ナエファイン フロアブル	苗立枯病 (ピシウム菌、 リゾープス菌、 フザリウム菌)	2000 倍	土壌灌注	播種時	2 回以内	育苗箱 (30×60× 3cm、使用土壌約 5 L) 1 箱あたり 0.5～1 L
タチガレエース M 液剤	苗立枯病 (ピシウム菌、 フザリウム菌)	500～ 1000 倍	土壌灌注	播種時又 は発芽後	1 回	育苗箱 (30×60× 3cm、使用土壌約 5 L) 1 箱あたり 500mL

### (2) もみ枯細菌病

発生すると苗が褐変腐敗し、容易に抜けやすくなります。育苗箱で発生するとすり鉢状の坪枯れ症状になります。罹病糲が感染源となることから、塩水選を徹底し、罹病糲を取り除きましょう。

**30℃以上の高温多湿条件で発生しやすくなるので、催芽や出芽は必ず 28℃以下で行い、**温度管理は温度計でも確認しましょう。発病が見られたら問い合わせ先に御連絡下さい。

## 6 施肥

- ・ 基肥は下記の標準施肥量を参考に、前年の水稻の倒伏程度やほ場の地力を考慮して施用しましょう。

品種	窒素施肥量 (kg/10a)		
	基肥	追肥	合計
コシヒカリ	4	2	6
ひとめぼれ	6	2	8
天のつづ 里山のつづ	6～8	2	8～10

### ～福島県農作業安全運動～ 【3/1～5/31】

春はトラクター等の利用が多くなり、農作業事故が発生しやすくなります。機械の点検、安全フレームを立てる、シートベルトを締めるなど安全対策を徹底しましょう。また作業はゆとりをもって行いましょう。

### GAP に取り組んでみませんか？

GAP（農業生産工程管理）は、は種・定植等から収穫・出荷までの過程について、適切なやり方を決めて実践し、適正に行われているかチェックし、改善していく、持続的な活動のことです。

FGAP の手引き（県 HP）はこちら→



**次回 田植え、本田初期管理等について  
5月上旬発行予定**